

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23 (電話) 011-753-8002		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】 (20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18人, 非常勤 人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	S造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15000円 暖房費(11-3月) 10000円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (50,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4	要介護2	2
要介護3	5	要介護4	5
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌東徳洲会病院・平川歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大手医療法人徳洲会を事業主体とし、札幌東徳洲会病院と連携関係にあり、同法人系列の老人保健施設を設立母体として協力関係にある。医療及び関連事業の強いバックアップ体制が利用者、家族の信頼につながっている。閑静な住宅地に位置する新築の鉄筋コンクリートの広い建物で、広々としたリビング、食堂を備えている。家族への報告は毎月、「なえぼ通信」のほかに個人別に毎日の生活の様子を日記風につづったシートを送っており、詳細な報告がなされている。また、母体事業所である老人保健施設と共同で行う家族アンケートでは忌憚のない意見が寄せられ、改善に寄与している。病院及び老人保健施設を含めて教育体制が整っており、外部研修とともに、職員教育が行き届いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の改定検討を行った。職員の異動については逐一家族に報告するようになった。同業者との相互訪問、研修は緒に就いた。災害対策についての地域の協力は運営推進会議の場で呼びかけている。水分摂取量は全員記録し、管理栄養士から栄養チェックを受けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布し、10日間ほどかけて記入したものを、管理者が取りまとめた。出来上がったものは職員に回覧し、運営推進会議でも報告、討議している。職員にとっては、日ごろの介護のあり方を見直し、反省し、学ぶ好機となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開かれており、グループホームの趣旨、活動内容、時々の取り組み課題、ターミナルケア、自己評価、外部評価、災害対策などについて討議されている。管理者が、高齢者介護について講演することもある。会議だけではなく、家族と利用者がともに過ごす機会を提供する場としても生かすために、食事会とすることもある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	母体事業所である老人保健施設と共同で、年1回家族アンケートを実施し、忌憚のない意見が寄せられ、結果は職員に周知し、スタッフ会議で検討し、運営推進会議でも報告して、改善に寄与している。また、事業所独自でも家族へのアンケートを実施して苦情や意見を求めて、運営に反映させる努力をしている。運営推進会議では家族の意見を積極的に聞きだしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会とは友好関係にあり、夏祭りやミニ運動会などの行事には積極的に参加しているが、町内会の事情で加入は見送られている。近くの幼稚園や小学校から発表会へ招待を受けたり、来訪を受けたりしている。近隣の住民がホームの花壇の手入れを手伝い、苗を持ってきて植えてくれる。施設の夏祭りには地域の人を招いて交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気、地域に根ざす、自分らしく健康に、というホーム独自の理念を掲げて実践している。毎年職員全員で内容を確認し、必要があれば見直しを行う態勢になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに掲載するほか、玄関とリビングに掲示してあり、職員は毎日目にし、簡潔で短いのでよく覚えられている。研修の際などには理念が取り上げられ、実践に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事には積極的に参加しているが、会の事情で加入は見送られている。近くの幼稚園や小学校から発表会へ招待を受けたり、来訪を受けたりしている。近隣の住民がホームの花壇の手入れを手伝い、苗を持ってきて植えてくれる。施設の夏祭りには地域の人を招いて交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配布し、10日間ほどかけて記入したものを、管理者が取りまとめた。出来上がったものは職員に回覧し、運営推進会議でも報告、討議している。職員にとっては、日ごろの介護のあり方を見直し、反省し、学ぶ好機となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開かれており、グループホームの活動内容、取り組み課題、ターミナルケア、評価、災害対策などについて討議されている。家族と利用者がともに過ごす機会を提供する場としても生かすために、食事会とすることもある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは親密に交流し、協力合っている。区役所には業務手続で訪問するほか、研修情報を得るなどしている。	○	区役所との往来をさらに頻繁に行い、ホームの状況を訴えながら多方面での行政の協力を得られるよう、検討を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は毎月、「なえぼ通信」のほかに個人別に毎日の生活の様子を日記風につづったシートを送っており、詳細な報告がなされている。職員の異動は「なえぼ通信」で逐一報告している。金銭管理は毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体事業所である老人保健施設と共同で、年1回家族アンケートを実施し、忌憚のない意見が寄せられ、結果は職員に周知し、改善に寄与している。また、事業所独自でも家族へのアンケートを実施して苦情や意見を求めて、運営に反映させる努力をしている。	○	外部の苦情受付機関を、重要事項説明書などの書面で明示するよう、期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際は利用者に気づかれぬようにあくまでも自然にしてもらうことによってダメージは起きていないと考えている。むしろ新人との馴染み形成に工夫を凝らし、はじめは見学者や職員の家族と紹介して、受け容れられやすいように計っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の研修を年間3回程度行い、緊急対応、事故対策、医学知識などを勉強している。また、母体の老人保健施設と合同で緊急対応、事故対策、感染症予防などの講習会を実施している。さらに、連携病院で行う、認知症などの研修に参加している。外部研修には計画的に優先順位を決めて派遣している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区のグループホーム管理者会議の代表を務めており、会議や研修の場で同業者と交流し、情報交換をしている。代表者として適宜同業者を訪問する機会に見学している。職員の交換研修は何時でもできる態勢が整っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	はじめは家族及び本人と面談し、本人が来訪して見学して納得したところで入居を決めている。入居の当初は孤立したり部屋に引籠ったりしないよう、頻りに声をかけて、お茶や体操に誘い出している。必要に応じて家族に来訪を求めたり一時帰宅して不安を解消するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、洗濯、畑仕事を一緒に行い、料理は下ごしらえや味見、作り方を教わりながら一緒に行っている。利用者は、職員の頑張りをほめ、気落ちしていると慰めてくれる。昔話を好み、職員はそこから学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から常に思いや意向の把握に努めている。会話の持ちかけ方も、利用者の意向を引き出すように配慮し、様子を見ながら辛抱強く言葉が出てくるのを待つ。長い経験から、注意深く観察することによって相手の気持ちがわかるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者はセンター方式に基づいてアセスメントを実施し、本人・家族の意向を聞き原案を作成している。「プラン会議」で課題を話し合い、完成させたものを家族に提示し、理解が得られる利用者には計画書をもとに話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「ケアチェックのまとめ表」や詳細な日々の介護記録を参考に職員間で話し合い、介護計画は3ヶ月ごとに見直している。家族の同意も得ており、健康や状態に変化があった場合は、その都度、実情に合った計画書に作り直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や母体の老人保健施設など、同一法人の中で医療的・生活リハビリなどのアドバイスをもらい、利用者の心身機能の向上に努めている。利用者の希望に添い、買い物や通院などの送迎をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に受診は可能であるが、入居時に希望する受診先を確認し、かかりつけ医の継続も勧めている。受診は家族の同行になっているが、事情に応じては受診介助を行い、かかりつけ医とは連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、緊急時には協力病院に搬送することで確認している。終末の兆しがある時には、話し合いを徐々にもち家族の意向を確認している。将来の課題として、終末期について主体的な取り組みについて検討しているところである。	○	重度化や終末期についての対応を整理し、ホームの方針を文章化することに期待したい。それに基づき、入居時の段階から家族と具体的な話し合いを進め、関係者で終末の過ごし方を共有する取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は人生の先輩として、その利用者にあった言葉遣いや態度で接し、利用者を傷つけるような言動に注意している。個人情報では、記録に不適切な記載があれば相互に注意しあい、また、書類はスタッフルームの鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の決まりごとに声かけはするが、無理強いしないで見守っている。利用者に手伝いごとを頼むとき、職員のペースで先に進めてしまうこともあり、利用者の自発性を生かすことを話題にしてミニ研修などで反省や話し合いをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ献立を変更しながら対応している。職員は利用者と役割を話し合う中で出来る人をお願いし、食事の準備や後片付けと一緒にやっている。食事中は職員も食卓につき料理などの会話を楽しみ家族的な雰囲気と共に過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時～夕食までに、毎日入浴できる態勢をとっている。希望に沿って週2回の入浴日を決めているが、必要に応じて適宜曜日を変更するなど、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、食事準備、畑仕事、冬季の雪かきなど、得意とする場面で職員と一緒に作業を行っている。歌やゲームを楽しみ、個人的な趣味ではネット手芸、編み物などを楽しんでいる。利用者は出来ないことで意欲が減少するので、本人にとって、何が良いのか考え、工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は頻繁に近くの公園や住宅の花を見て回ったり、ホームの裏側にある大型店舗に出かけたりしている。車いすの人も戸外に出かけられるように支援している。冬場は近所に大型店舗が多いので月に数回は車で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関への出入り口にある自動ドアはスイッチを切っているが手動で開けられる。職員間で利用者の出入りに注意し、表に出た時は職員の同行で安全に見守り、鍵を掛けないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者も参加し、マニュアルに沿って自主的な避難訓練を年に2回実施している。その他、年2回、母体施設での訓練にも参加している。火災などの緊急時には、敷地内の母体施設や運営推進会議に協力を依頼してある。次回には消防署の協力を得ての訓練を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ファイルに、水分量、食事量を記載し、情報を共有し確認している。献立はユニットごとに職員が作成しており、献立表と食事内容を写真にして、母体の老人保健施設の栄養管理士にチェックしてもらい、アドバイスを記録にとって役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い共有空間を、食卓テーブルとリビングの場所に分けて、利用者がゆったり寛げるような環境作りになっている。利用者と一緒に作った毎月のカレンダー、日めくりや季節の作品などを壁に貼り、季節感を作り出している。家庭的な雰囲気を加えるために配置の工夫について考えているところである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具類を持ちこみ、本人と家族が居室作りをしている。家族の写真、書籍、携帯ラジオや趣味の作品などが飾られている。職員は安全とのバランスに配慮しながら見守っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。